



Amihari
visitor center

Vol.104
2022.9



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

網張で初めて会った“マミジロ”

真夏のような勢いがなくてもまだ十分に暑さを感じられたある日のお昼頃、湯の沢大橋でマミジロのヒナに出会いました。ほんの数メートル先にいたにもかかわらず、同行していた方にこっそり教えてもらうまで全く気づかないほど周りの景色に同化していました。アカハラに似た大きさで、普段よく目にする留鳥のカラ類に比べると随分大きい印象です。体は大きいものあどけない嘴と肩付近の雨覆の羽がまだ生え揃っておらず「一羽で平気？」と思わず声をかけたくまりました。以前にもここで似たような黒っぽい鳥が法面の低木群の中にスーッと入ってゆく姿を目にしたことがあり「もしかしてあの時の？」と合点がいきました。さえずりはおろか一声も発することなく同じ方向を向いたままで、写真でも見ているかのように時間が止まった時間がしばし流れました。こちらでも知らずに息が浅くなり、慌てて息を吸うとそれを察知したかのようにヒナは谷沿いの木々の中へ下降し見えなくなりました。日差しがあっても葉の生い茂った木の下ではヒナの姿を見つけられず、控えめすぎる色合いの理由がわかった気がしました。網張では成鳥も見たことがなくヒナも初見でしたが、マミジロ以外にも人知れず繁殖している鳥が他にもいるかもしれない…、森の懐の深さを改めて感じた出会いとなりました。

What is “Mamijiro”?

『眉斑の白が目立つ鳥』

ヒタキ科

全長：約 23cm

分布：北海道～本州

夏鳥で低山帯から亜高山帯にかけて山地の林などに生息。オスは全体が黒色で眉斑は白い。メスは額から体上面がオリーブ褐色で眉斑と頬線、喉は黄白色。雑食性でミミズや昆虫類・幼虫を採食するが木の実も食べる。メスも囀ることが確認されている。「マミ」は昔の言葉で目元のこと。

(同定協力：伊達生物調査事務所 伊達 功 氏)
(参考図書：「日本の野鳥」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



LUCKY IN THE SKY WITH DIAMONDS

Written by John Lennon / Paul McCartney

勤務を終え網張から雫石方面へ下りる途中、葛根田水辺公園の周辺で夕焼けに引き止められて車を降りました。よく澄んだ水中を思わせる青空を、雲がゆっくり山吹色の方へ流れ、それをアキアカネがスイスイと滑るように追い越していきます…。

そんな心地良かったゆたう時の中で、marmalade skies〜と唱われたビートルズの歌詞が浮かんできました。ジョン・レノンが息子の描いた絵から着想を受けて制作されたその曲は、Aメロが3拍子、Bメロが4拍子で、もともと別の曲だったものを一つにまとめたそうです。それを違和感なく聴かせる所にジョンならではのセンスが感じられます。



「黄昏」の「黄」は太陽、「昏」は暗いの意で「誰そ、彼」が語源

【拍子】一定の拍（はく）がひとまとまりになってリズムの基礎をなすもの。強拍と弱拍の組み合わせからなる。

人が好む音楽は様々ありますが、その起源は声楽だったと考えられています。鳥の声や虫の音と同様に求愛の手段に用いられ、歌のうまい者が選ばれてきたのでしょう。リズムを生み出すものとして、拍手はもとより打楽器は他の楽器の先駆けだったようです。農耕民族は2拍子や4拍子、騎馬民族は3拍子、アフリカではあえて拍をはずす（スウィング）のが好まれるのだとか。普段意識する事はありませんが心臓の鼓動は3拍子、平時の呼吸は2拍子と私たちの体もリズムを刻んでいます。自然に身をゆだねて感じる「ゆらぎ」に、内面に流れるリズムを合わせるにはちょうどよい季節です。

参考図書：福岡伸一『ゆく川の流れば、動的平衡』



アミハリ・バース
Vol. 4 6

ビンズイ

科名：セキレイ科
全長：約 15.5cm

生態：漂鳥、東日本では夏鳥、西日本では冬鳥
分布：四国以北（冬は暖地に移動）

ツイツイ、ツイーヅィーという地鳴きから、ビンズイ（便追）と名付けられたそうです。別名は「木ヒバリ」で、ヒバリに似た複雑なさえずりも得意です。さえずりながら、こすえから飛び立ち、なわばりを主張する「ディスプレイ行動」をとる事も知られています。

繁殖地は低山から亜高山の林や林縁、樹木のある草原等で、岩手山や早池峰山の岩稜帯でも見かける事があります。営巣は崖や草地、地面のくぼみ等におわん型の巣を作ります。カッコウの仲間のジュウイチに托卵される事もありますが、時おり見抜いて卵を巣の外に捨てる行動も確認されています。

山で繁殖をすませたビンズイは、越冬のため暖地に移動します。海辺に植林された松林を好み、林床を歩き松かさをつついて採食する様子も見られるそうです。日本の風土に柔軟に寄り添い生きる、お手本のような存在ですね。



K.Hirono '22

▶ 網張ビジターセンター歴史 ～ Vol.4 人 ～ ◀

網張ビジターセンターは開館以来、県内外や時に海外からも様々な方に足を運んで頂きました。温泉目的のお客様をはじめ、宿泊者や登山者・散策者・キャンパー・スキーヤー・行事参加者・各諸団体など顔ぶれは多岐に渡ります。

加えて多くの関係者に支えられて、今日まで歩みを進めて参る事ができました。これまで当地を訪れて下さった皆さまに心から御礼を申し上げますと共に、懐かしいその軌跡を振り返ってみたいと思います。

来館者数の推移



館内に設置していた来館者からの「メッセージカード」より

「久しぶりに来た網張にこのような素敵な施設ができてびっくりしました。アクリルに入ったコマクサの標本は圧巻ですね。(中略)また岩手の山に遊びに来たい気持ちでいっぱいになりました。」(2005)



「網張の大自然が大好きです。温泉で身体をいやし、当センターで心や頭を活性化し、いつも満足して帰ります。ありがとうございます。」(2011)

シリーズ企画「人と自然を守って」(2011～2013)

国立公園内の自然を安全かつ快適に利用するために、陰で尽力されている方々にスポットを当てた企画です。山岳救助隊や自然公園保護管理員、パークボランティア等12名の方々に、貴重なお話を伺いました。



- 「ようこそ網張へビジターさんにインタビュー」(2014～2019) 9名と1家族
- 「網張近辺 今昔物語」(2015～2016) 5名
- 「岩手山地区パークボランティアの素顔」(2017～2018) 4名
- 「網張 岩手山 私のとっておきの一枚」(2020～2021) 7名

リピーターや関係者にインタビューや画像をご提供いただいたおかげで、多面的かつ中身の濃い記事を掲載する事ができました。



執筆をお願いした各シリーズ(2012～2020)

当誌面へ通年での連載を快く引き受けて下さった方は6名になります。中でも「喜作先生の自然スケッチ」は2年間計12回の長期連載となりました。ご協力をいただいたみなさま本当にありがとうございました。



「初めてのVC勤務体験…大学生たちが過ごした網張の夏」

(2013～2019) ※改題含む



夏の恒例として、関西大学の学生が2～5名程インターンで訪れました。慣れない土地で1週間自然を学び、疲れを感じさせない生き生きとした表情で帰路へとつきました。

VC行事報告「ドコモ網張の森」森林整備、「雫石中学校の職場体験受け入れ」、「滝沢第二小学校森林学習」、「フレンド滝沢秋の遠足」、「いわて定住・交流体験ツアー」ほか(2019)

すべてVol.87(11月発行)でご紹介した盛りだくさんな依頼行事です。各団体が岩手山麓の秋に足跡を残していきました。



来館者延べ人数：**357,052名** (2022年9月19日現在)

「新緑を楽しめたので、今度は紅葉の時期に来ようかな…」 「孫を連れて、また来ますね…」 そんな言葉に励まされ、これまでVCスタッフとして8名が窓口対応にあたってきました。今後も当施設が自然と人とをつなぐ場として親しんでもらえるよう、引き続きお引き立てを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

写真提供：岩手山地区パークボランティア

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

-国立公園で楽しむ親子の自然体験-

7/30「よるの森をのぞいてみよう！ コウモリ調査体験と 昆虫ライトトラップ」



チョウとガの違い、灯火に集まる昆虫について、コウモリはどのような生きものなのか等、画像やクイズを交えてお話を伺ってから夜の森へ。糖蜜トラップや灯火にたくさん集まった昆虫の観察や、バッドテクターを使ってコウモリの出す超音波を探す調査、コウモリの飛翔の観察等、普段ではできない体験を親子で楽しみました。総勢 35 名参加

○●○●○●○●○●○●○●○●○

8/6「夏休み！親子で楽しむ だて先生の昆虫観察&クラフト体験」



チョウの匂いは？バッタの鳴き声は？触る前にどんな手触り？子どもたちが捕まえた昆虫をだて先生の解説を聞きながらじっくり観察しました。午後は木の葉や小枝など森の素材を使ってお気に入りの昆虫などのクラフトを作りました。総勢 28 名参加

○●○●○●○●○●○●○●○●○

8/28「おかわりしたくなる！ 炭火炊飯体験」



森の木が炭となり燃料として使われるようになるまでのお話を炭焼き人の講師より伺いました。その後、パトニングによる薪割りに挑戦。白炭と黒炭の質感を手で触って確かめたり、マッチで木の皮に着火させ炭火をおこす体験をしました。ご飯も美味しく炊け、どの家族も残さず完食しました。総勢 21 名参加

9/10「鞍掛山麓で キノコと親しくなろう」



ポリ・ナラタケ等おなじみのキノコから食べられない又は美味しくないキノコまで、森で見つけた一つひとつのキノコを分かりやすく解説していただきました。クライマックスは冬虫夏草の観察。掘り起こしてみるとカメムシが！森とキノコの関係やキノコの不思議にも迫りました。総勢 30 名参加

7/24 岩手県市町村職員健康福利機構 夏休み親子プラン「犬倉展望台へ ハイキング&草花のこすり染め体験」

散策しながら採取した草花でオリジナルハンカチを作りました。犬倉展望台では網張温泉元湯の噴気と音の迫力を感じました。



滝沢第二小学校5年生校外学習 「岩手山と自然の恵み」



児童の皆さんはキノコ、ヤマナメクジ、赤い実、ドングリ…等次々とおもしろいと思ったものを発見。一つひとつが関わり合って森が構成され循環していることや、私達は岩手山から多くの恵みをいただいていることを五感を使って体感しました。

夏休み特別企画 「網張の森の昆虫たち」



今年は昆虫写真展、昆虫スケッチに加え、昆虫カードゲームも設置。昆虫に関心をもってもらう機会となりました。「昆虫写真展」人気投票第一位はエソハルゼミでした。たくさんのご参加ありがとうございました！

インフォメーション

-国立公園で楽しむ親子の自然体験-

10/2「おいしいわき水を飲む！犬倉山登山」

9:30~15:00 網張ビジターセンター集合
講師：広野 孝男 氏（裏岩手山岳会）
定員：親子5組 10名 ※定員に達しました
参加料：大人・中学生 1,900 円（リフト代込）
小学生 1,000 円（リフト代込）

●△○●▽●△○●▽●△○●▽●△○●▽●△○●

10/22「紅葉の網張ハイキング&記念スケッチ」

10:00~14:00 網張ビジターセンター集合
講師：工藤 義之 氏
(水曜デッサン会・いわて水彩画会)

定員：10名 ※要予約
参加料：大人 500 円 小学生以下 300 円

11/6 森のクラフト体験

「小刀でバターナイフを作ろう！」
9:30~11:30 網張ビジターセンター集合
定員：各10名 ※要予約
参加料：一人500円(材料費込)

-現在開催中のビジターセンター企画展-

9月1日(木)~9月30日(金)

- 中山大太郎写真展 -

『岩手山の表情Ⅹ』



コロナ禍の中「山は逃げない」と云う人もいますが、七回目の寅年を迎えた私にとっては行きたい山と行ける山との乖離がどんどん大きくなっていくのを実感している今日

この頃です。それでも二度同じ表情を見せてくれない岩手山を撮りたくて出かけています。-出展者の言葉より-

-来月開催のビジターセンター企画展-

10月1日(土)~10月31日(月)

- 佐藤久江写真展 -

『岩手山』

子供の頃からずっと岩手山を見ながら育ち、あこがれの岩手山に初めて登ったのは長男の小学校登山の参加でした。その後職場の友達とカメラを持ちながらの山歩きが増えていきました。他県の山を歩いて、やっぱり四季折々の表情を見せてくれる身近な岩手山が一番です。



-出展者の言葉より-

モモンガのつばやき

8月に環境省盛岡管理官事務所にご協力いただき「特定外来生物ってなに？環境省アクティブ・レンジャーと一緒に学ぼう！」という行事を行いました。今回のメインテーマは7月~9月に沿道で見られる黄色い花「オオハシソウ」。明治時代に鑑賞用として持ち込まれた植物ですが、現在は繁殖力が強く在来生物の生育を妨げる等の理由から特定外来生物に指定されています。

参加者の中に岩手日報の関係者もおられ、9月3日の「風土計」にも取り上げていただきました。かつて人が持ち込み今は厄介者とされる植物。自然と人がどう関わるか考えさせられます。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月 1,616人 ◆ 8月 1,711人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 16.7℃ ◆ 8月 15.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時